

# LM・オーストラリア高配当株ファンド(年2回決算型)

追加型投信／海外／資産複合

## 交付運用報告書

第6期(決算日2016年3月22日)

作成対象期間(2015年9月25日～2016年3月22日)

第6期末(2016年3月22日)	
基準価額	12,142円
純資産総額	1,140百万円
第6期	
騰落率	11.3%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
ホームページの「ファンド情報・基準価額一覧」等から当ファンドを選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧及びダウンロードすることができます。

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「LM・オーストラリア高配当株ファンド(年2回決算型)」は、2016年3月22日に第6期の決算を行いました。

当ファンドは、配当収入の確保と信託財産の中長期的成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

**レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社**

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

お問い合わせ先

TEL 03-5219-5947

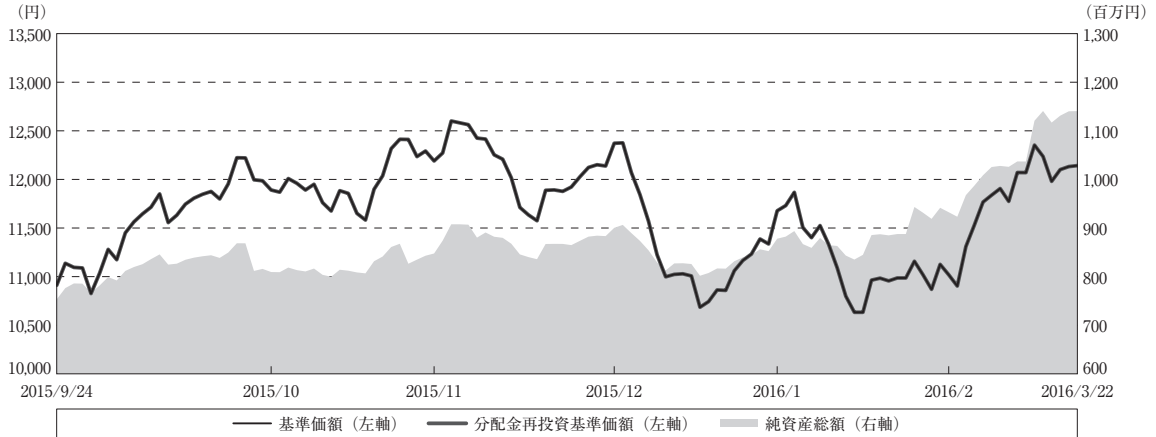
(営業日の9:00～17:00)

<http://www.leggmason.co.jp>

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2015年9月25日～2016年3月22日)



期首：10,911円

期末：12,142円(既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：11.3%(分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2015年9月24日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

期末(2016年3月22日)のLM・オーストラリア高配当株ファンド(年2回決算型)(以下、当ファンド)の基準価額は12,142円となりました。当期の当ファンドのパフォーマンス(騰落率)はプラス11.3%、基準価額は1,231円上昇しました。株式市場の上昇を受け株式要因がプラスとなったことに加え、豪ドル高・円安を反映し為替要因もプラス寄与となりました。

## 1万口当たりの費用明細

(2015年9月25日～2016年3月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 103	% 0.882	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
(投信会社)	( 50)	(0.425)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	( 50)	(0.425)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	( 4)	(0.032)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	6	0.050	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数
(株式)	( 5)	(0.041)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投資証券)	( 1)	(0.009)	
(c) その他費用	4	0.035	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 0)	(0.004)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	( 0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷等費用)	( 3)	(0.022)	印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出に係る費用
(その他)	( 1)	(0.006)	権利処理に伴う費用 (外国税額分も含む)
合 計	113	0.967	
期中の平均基準価額は、11,662円です。			

- (注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まず。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2011年3月22日～2016年3月22日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2013年6月28日です。

	2013年6月28日 設定日	2014年3月20日 決算日	2015年3月20日 決算日	2016年3月22日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,307	13,496	12,142
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	13.1	19.4	△10.0
純資産総額 (百万円)	4	73	690	1,140

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2014年3月20日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

## 投資環境

(2015年9月25日～2016年3月22日)

当期のオーストラリア株式市場は、上昇しました。

期の前半は、米早期利上げ観測の後退や中国の追加金融緩和などを受け、株式市場は上昇基調で始まりました。しかし、その後、米国の年内利上げの可能性が改めて意識されたことやオーストラリア準備銀行(RBA)による利下げ観測が後退したことなどから、株式市場は下落しました。

期の半ばは、株式市場は米国の利上げ懸念などから軟調となったものの、2015年12月に実際に米国で利上げが決定されると、その後の利上げペースは緩やかとの見方が広がり、買戻しが優勢となりました。しかし、2016年に入ると、中国をはじめとする世界的な株安や原油安を受け、オーストラリアの株式市場も下落しました。

期の後半は、原油価格の持ち直しの動きが強まったことや、主要輸出品目である鉄鉱石価格が上昇したことなどを背景に、株価は反発しました。2015年10-12月期の豪GDP成長率が市場予想を上回ったことも株価を押し上げました。また、日銀や中国人民銀行が追加緩和に踏み切ったことも、投資家心理の改善につながりました。

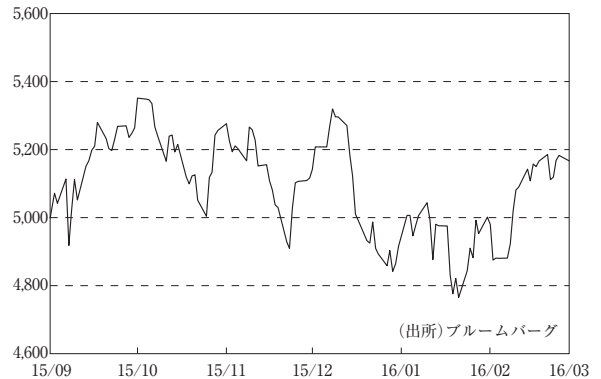
当期の豪ドル・円相場は、豪ドル高・円安となりました。

期の前半は、欧州中央銀行(ECB)による追加緩和観測の強まりや、中国人民銀行による追加金融緩和策の実施を受け、投資家のリスク回避姿勢が緩んだことなどから、豪ドルは対円で上昇に向かいました。

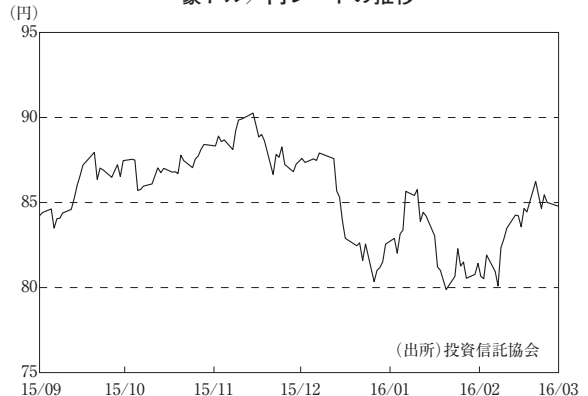
期の半ばは、豪雇用統計が良好な内容となったことなどが好感され、豪ドルは対円で一時上昇しましたが、その後、鉄鉱石価格や原油価格の下落を背景に資源国通貨である豪ドルは軟調となりました。さらに、中国景気への先行き不透明感や世界的な株安などによって投資家のリスク回避姿勢が強まり、豪ドル売り・円買いが進行しました。

期の後半は、日銀が予想外の追加緩和を決定したことを受け、豪ドルは対円で一時上昇しました。しかし、その後、世界的な株式相場下落や原油安を受けて、投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、豪ドル売り・円買いが優勢となりました。期末にかけては、豪GDPが予想を上回ったことや、資源価格の上昇を受けリスク回避の動きが緩んだことなどから、豪ドルは対円で反発しました。

オーストラリア株式指数 (ASX200) の推移



豪ドル/円レートの推移



## 当ファンドのポートフォリオ

（2015年9月25日～2016年3月22日）

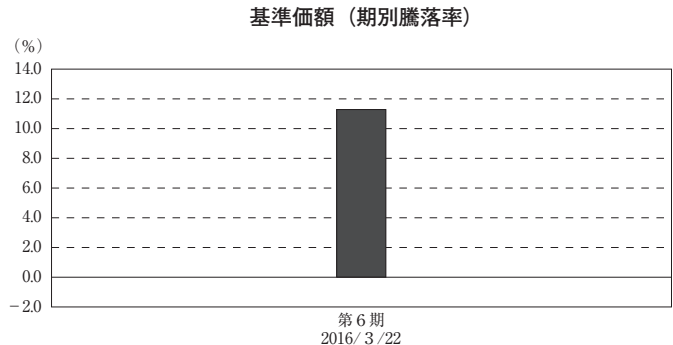
当ファンドは、主に「LM・オーストラリア高配当株マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主にオーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券に投資を行うことにより、配当収入の確保と信託財産の中長期的成長を目指して運用に努めてまいりました。当期においては、高水準の配当利回りが期待できるオーストラリア株式への投資を行いました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2015年9月25日～2016年3月22日）

市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

右記のグラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

**分配金**

(2015年9月25日～2016年3月22日)

分配金につきましては、基準価額動向や保有株式の配当収入等を勘案し、以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充当しなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第6期
	2015年9月25日 ～2016年3月22日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,363

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

**今後の運用方針**

オーストラリア経済は、緩やかな景気回復を維持するものと予想されます。2015年10-12月期の豪GDP成長率が前期比+0.6%とプラス成長を維持するなど、景気は緩やかな回復基調を維持しています。雇用環境が改善傾向にあることなどが背景となっています。今後も、非鉱業セクターを牽引役とする景気回復サイクルへの移行が期待されます。

金融政策については、RBAは2016年3月の理事会まで継続的に政策金利を据え置いています。また、声明文で経済成長を支援するために緩和継続が依然として適切との判断を示しています。当面は、内外の経済動向や金融市場の行方を注視しながら様子見姿勢が維持されるものと予想されます。

株式市場については、中国をはじめとする世界的な金融市場や商品相場の不透明感は払しょくされてはいませんが、オーストラリアの緩やかな景気回復基調を背景に、底堅く推移するものと予想されます。資源価格に持ち直しの兆しが見られていることも、株価を下支えするものと見込まれます。

為替市場については、RBAによる追加利下げの思惑が高まる局面などにおいて、豪ドルの上値が抑えられる可能性があります。しかし、オーストラリアの景気が今後も緩やかな成長基調を辿ると見込まれる一方、日本では日銀がマイナス金利を導入し積極的な緩和姿勢を示していることから、豪ドルは対円で底堅く推移するものと予想されます。

当ファンドにおきましては、これまで同様に、市場環境を注視しながら、投資魅力度が高く、高配当が期待できる銘柄を選別し、ポートフォリオの構築を行う方針です。

## お知らせ

該当事項はございません。

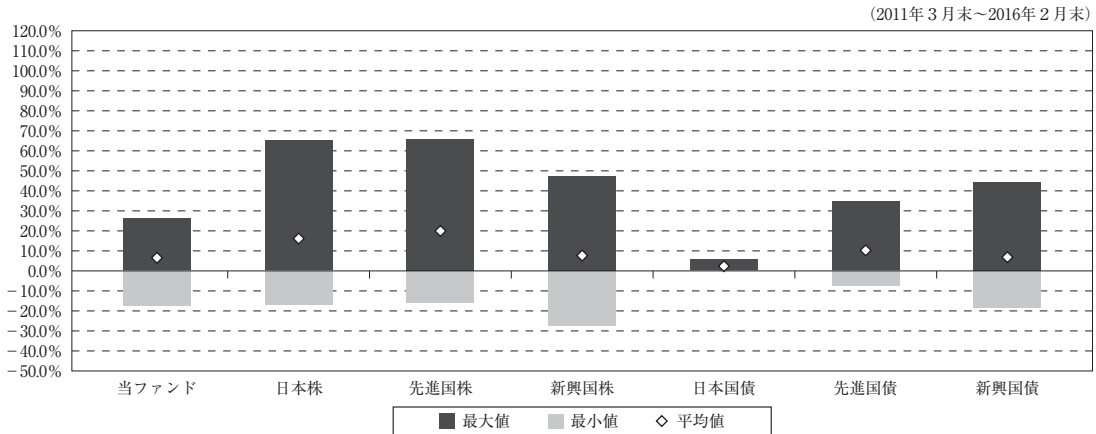
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	平成25年6月28日～平成33年9月21日まで	
運用方針	主にオーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券に投資を行うことにより、配当収入の確保と信託財産の中長期的成長を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	「LM・オーストラリア高配当株マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	LM・オーストラリア高配当株マザーファンド	オーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	株式への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	LM・オーストラリア高配当株マザーファンド	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	決算日（原則として毎年3月20日及び9月20日。休業日の場合は翌営業日。）に、基準価額水準等を勘案して収益の分配を行います。	



## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	26.7	65.0	65.7	47.4	5.6	34.9	44.1
最小値	△17.6	△17.0	△15.6	△27.4	0.4	△7.5	△18.1
平均値	6.6	16.2	20.0	7.7	2.4	10.3	6.9

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年3月から2016年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは、2014年6月以降の年間騰落率を用いています。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## \*各資産クラスの騰落率を計算するために使用した指数

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、ヘッジなし・円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、ヘッジなし・円ベース)

日本国債：シティ日本国債インデックス (円ベース)

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：シティ新興国市場国債インデックス (ヘッジなし・円ベース)

(注) 海外の指数は、各資産クラスに為替ヘッジなしによる投資を行うことを想定して、円ベースの指数を採用しております。

(注) 上記各指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はその指数を算出、公表しているそれぞれの主体に帰属します (TOPIX：株式会社東京証券取引所、MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックス：MSCI Inc.、シティ日本国債インデックス、シティ世界国債インデックス、シティ新興国市場国債インデックス：Citigroup Index LLC)。また、それぞれの主体は当ファンドの運用に関して一切の責任を負うものではありません。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2016年3月22日現在)

#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第6期末
L M・オーストラリア高配当株マザーファンド	100.7%
組入銘柄数	1銘柄

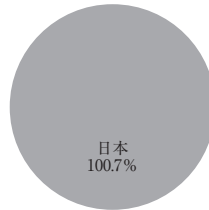
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

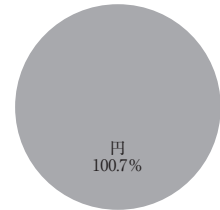
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は組入資産(現金等を除く)の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分は組入資産(現金等を除く)を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

### 純資産等

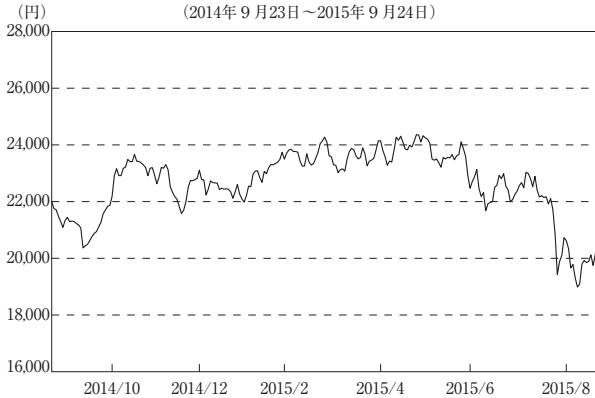
項目	第6期末
	2016年3月22日
純資産総額	1,140,580,645円
受益権総口数	939,389,135口
1万円当たり基準価額	12,142円

\* 期中における追加設定元本額は385,598,234円、同解約元本額は136,527,400円です。

組入上位ファンドの概要

L M・オーストラリア高配当株マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2014年9月23日～2015年9月24日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式投資証券)	25円 (20) (5)	0.111% (0.088) (0.022)
(b) その他費用 (保管の費用)	5 (2) (3)	0.021 (0.007) (0.014)
合計	30	0.132

期中の平均基準価額は、22,698円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。  
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

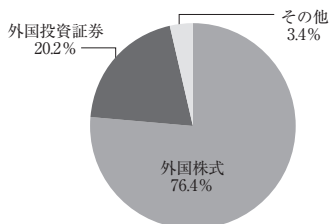
【組入上位10銘柄】

(2015年9月24日現在)

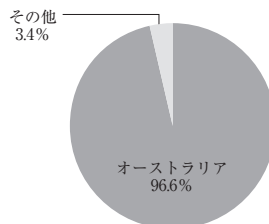
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	DUET GROUP	公益事業	オーストラリアドル	オーストラリア	5.8
2	INSURANCE AUSTRALIA GROUP	金融	オーストラリアドル	オーストラリア	5.3
3	FEDERATION CENTRES	投資証券	オーストラリアドル	オーストラリア	5.3
4	WESTPAC BANKING CORP	金融	オーストラリアドル	オーストラリア	5.0
5	SCENTRE GROUP	投資証券	オーストラリアドル	オーストラリア	5.0
6	IOOF HOLDINGS LTD	金融	オーストラリアドル	オーストラリア	4.7
7	WESFARMERS LTD	生活必需品	オーストラリアドル	オーストラリア	4.3
8	WOOLWORTHS LTD	生活必需品	オーストラリアドル	オーストラリア	3.8
9	AUST AND NZ BANKING GROUP	金融	オーストラリアドル	オーストラリア	3.7
10	AUSNET SERVICES	公益事業	オーストラリアドル	オーストラリア	3.7
	組入銘柄数		40銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。  
 (注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

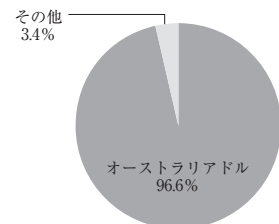
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は組入資産(現金等を除く)の当ファンドの純資産総額に対する割合です。  
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。  
 (注) 通貨別配分は組入資産(現金等を除く)を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。